

## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 NANO MRNA株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4571 URL https://www.nanomrna.co.jp/  
代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 秋永 士朗  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 藤本 浩治 TEL (03) 6432-4793  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無: 有  
決算説明会開催の有無: 有 (アナリスト及び機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

## (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	7	△91.5	△373	-	△382	-	△518	-
2024年3月期中間期	91	△1.0	△518	-	△471	-	△477	-

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 △412百万円 (-%) 2024年3月期中間期 △521百万円 (-%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△7.36	-
2024年3月期中間期	△6.80	-

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	4,739	3,057	64.2
2024年3月期	5,071	3,421	67.2

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 3,041百万円 2024年3月期 3,405百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年3月期	-	0.00	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	108	△19.9	△893	-	△856	-	△994	-	△14.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

連結業績予想の修正については、本日（2024年11月14日）公表いたしました「2025年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	70,625,458株	2024年3月期	70,393,158株
-------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2025年3月期中間期	23,529株	2024年3月期	11,428株
-------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数(中間期)

2025年3月期中間期	70,435,343株	2024年3月期中間期	70,208,782株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	5
中間連結損益計算書 .....	5
中間連結包括利益計算書 .....	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(会計方針の変更に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当社は、2023年1月よりmRNA医薬開発候補に関する知的財産(IP)を創製し、製薬企業等に導出し収益を得るという事業モデル(IPGモデル)を推進してまいりました。

花王株式会社との共同研究開発プロジェクトではアレルギー疾患分野における免疫寛容ワクチンについて複数のプロジェクトを立ち上げ、うち1つは開発候補品を選定する段階に既にステージアップしております。さらに、花王株式会社とは、2024年10月に皮膚領域に関する新しい取り組みを開始することについて合意し、新規事業の可能性について検討を開始しました。

組織再生領域では、2024年8月、千寿製薬株式会社と眼科領域でのmRNA医薬開発の治療標的分子および疾患の選定に至り、共同研究を開始しました。また、自社研究から皮膚のアンチエイジングに関するmRNAの開発候補の同定に至り、候補品の最適化を開始しました。

一方で、事業推進の新たなエンジンとして、顧客からのニーズに応える形で、mRNA医薬品の創製に関する受託研究型ビジネスを立ち上げ、顧客が保有するmRNA医薬品候補の研究開発支援を開始し、既に1件の受注に成功しています。

今後、医師主導治験が順調に進捗しているTUG1 ASO(アンチセンスオリゴ核酸)、治験開始準備が進んでいるRUNX1を中心に導出活動を進めるとともに、パイプラインの拡充を進めてまいります。

### (mRNA医薬パイプライン)

mRNAはCOVID-19ワクチン上市により、新たなモダリティ(創薬技術)として認知され、感染症予防ワクチン、がん治療ワクチン、遺伝性希少疾患治療などの分野での開発競争が激化しています。当社はmRNA医薬の中では比較的ニッチな領域である組織再生、免疫寛容ワクチンなどの領域で自社開発を進め、最もホットな感染症予防ワクチンなどについては国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)プロジェクトおよび受託試験で取り組んでおり、合計7パイプラインの研究開発を行っております。

#### <組織再生>

変形性膝関節症に対するRUNX1 mRNAは、国内初のmRNA治療薬であり、医師主導治験の準備を進めています。これに続くパイプラインとして、皮膚のアンチエイジング及び千寿製薬株式会社との共同で眼科疾患に対するmRNA治療薬の研究開発を進めております。

**RUNX1 mRNA :** アクセリード株式会社と共同で設立した株式会社PrimRNAにおいて、変形性膝関節症患者を対象とした医師主導第I相臨床試験の2024年度末までの開始を目指し、規制当局相談などの準備を進めております。

本件は、軟骨の増殖・分化に関わる転写因子RUNX1のmRNAをミセル製剤化し膝関節内に直接投与する変形性膝関節症の進行抑制及び疼痛の軽減を実現する革新的な疾患修飾型治療薬候補です。本プロジェクトは、AMEDの医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)に採択されております。

**皮膚領域** 独自に皮膚の老化をターゲットとして、AIを活用して複数の候補たんぱく質のmRNAをデザインし、ヒト皮膚細胞を用いたスクリーニングを行った結果、皮膚のアンチエイジングに有用なたんぱく質の発現を誘導する1種類のmRNA医薬候補を見出しました。今後、本候補についてさらなる最適化に取り組み、開発品としてブラッシュアップを進めるとともに、他の開発候補創出に向けたmRNAのデザインとスクリーニングを継続しており、引き続きラインアップ強化を図ります。

**眼科領域** 千寿製薬株式会社と進めてまいりましたmRNAを用いる眼科疾患治療薬創製についての基礎的な検討の結果、治療標的分子及び疾患の選定に至り、2024年8月に共同研究を開始しました。

#### <ワクチン>

免疫寛容ワクチンの研究は、花王株式会社との包括共同研究契約下に進めており、最初のプロジェクトは既に開発候補選定段階にステージアップしました。これに続くプロジェクトを両社合意に基づき開始するとともに、継続的な新たなプロジェクトの創出にも協力して取り組んでおります。なお、感染症予防ワクチンについては、AMED先進的研究開発戦略センター(SCARDA)事業に採択されたCrafton Biotechnology株式会社を代表機関とするワクチン開発に分担機関として参画するとともに、受託研究型ビジネスとしても取り組んでおります。

免疫寛容ワクチン： 花王株式会社が独自開発した免疫制御技術を用いたmRNA医薬の創製に向けた包括共同研究契約の下、免疫寛容ワクチンに関する共同プロジェクトを進めております。最初のプロジェクトは、既に開発候補選定ステージに進んでおり、Axcelead Drug Discovery Partners株式会社(ADDP)との協業を活用して候補選定を行っております。後続のプロジェクトについても、花王株式会社との合意に基づき開始しており、両社は新たなプロジェクトの創出に向けた検討を継続しております。

#### (mRNA医薬以外のパイプライン)

mRNA医薬以外にも当社独自のオリゴ核酸DDS技術であるYBCポリマーを用いた抗がん剤パイプラインの開発を進めております。

TUG1 ASO： 2024年2月に開始した、最も悪性度が高い脳腫瘍である膠芽腫を対象とする医師主導第I相臨床試験は順調に進捗し、既に予定されている4段階の用量の第3段階に到達しております。

TUG1 ASOは、長鎖非翻訳RNA TUG1を標的とするDDS製剤であり、AMEDの革新的がん医療実用化研究事業に2期連続で採択されると共に、今年度から新たに臨床研究・治験推進研究事業にも採択されております。当社は、分担研究機関として治験実施CROの管理、薬物動態解析、治療薬の供給などを行っています。

2023年8月に本課題の基盤となる2件の特許について、再実施許諾権(サブライセンス権)付独占ライセンス権を獲得し、導出活動を開始しております。

NC-6100： 転写因子PRDM14に対するsiRNAのDDS製剤に関する慶應義塾大学等との共同開発プロジェクトです。公益財団法人がん研究会有明病院において、医師主導第I相臨床試験が実施され、第28回日本がん分子治療標的学会で同院の高橋俊二医師から、急性輸注反応が見られず、安全性・忍容性に優れ、その薬物動態は動物試験結果よりも良好な傾向が見られたことが報告されました。本成績は、当社のYBCポリマーのヒトでの安全性及び有用性を示すものです。なお、本治験は既に患者の登録を終了しております。

#### (販売事業の状況)

株式会社アルビオンが販売する美容液エクラフチュール及び薬用美白美容液エクシア ブライトニング イマキユレート セラム用の当社技術を応用した原材料を供給しております。

コムレクス®耳科用液1.5% (開発コードENT103) は、2023年6月からセオリアファーマ株式会社により販売されております。

以上の結果、当中間連結会計期間において売上高は7,700千円(前年同期比91.5%減)、営業損失は373,995千円(前年同期営業損失518,624千円)、経常損失は382,431千円(前年同期経常損失471,447千円)、親会社株主に帰属する中間純損失は518,353千円(前年同期親会社株主に帰属する中間純損失477,360千円)となりました。

なお、当中間連結会計期間におきまして、外国為替相場の変動による為替差損25,455千円を営業外費用に計上しております。これは主に、当社の保有する外貨建預金の評価替えにより発生したものであります。また、当中間連結会計期間におきまして、投資有価証券評価損134,000千円を特別損失に計上しております。これは、当社の保有する投資有価証券の時価の著しい下落に伴う減損処理により発生したものであります。

#### (2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における資産は、有価証券の減少と現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末に比べ331,316千円減少し、4,739,962千円となりました。負債は、流動負債の「その他」に含まれる前受金の増加等により、前連結会計年度末に比べ32,843千円増加し、1,682,734千円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する中間純損失の計上による利益剰余金の減少等により、前連結会計年度末に比べ364,160千円減少し、3,057,228千円となりました。

#### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期連結業績予想につきましては、第2四半期までの実績及び事業の進捗等をもとに通期着地見込みを精査した結果、業績予想の修正が必要と判断したため、前回発表した業績予想を修正いたしました。

詳細については、本日(2024年11月14日)公表しました「2025年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,077,635	2,883,581
受取手形及び売掛金	28,820	8,470
有価証券	2,200,000	1,200,000
原材料及び貯蔵品	184	644
その他	155,439	150,479
流動資産合計	4,462,079	4,243,175
固定資産		
有形固定資産	0	0
無形固定資産	0	0
投資その他の資産		
投資有価証券	357,820	330,160
その他	251,379	166,626
投資その他の資産合計	609,199	496,786
固定資産合計	609,199	496,787
資産合計	5,071,279	4,739,962
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	250	460
未払法人税等	17,251	15,952
その他	469,037	502,818
流動負債合計	486,538	519,231
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,108,916	1,108,916
資産除去債務	31,992	32,142
その他	22,444	22,444
固定負債合計	1,163,352	1,163,503
負債合計	1,649,891	1,682,734
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	142,465	166,392
資本剰余金	5,522,905	5,546,832
利益剰余金	△2,151,507	△2,669,861
自己株式	△27	△27
株主資本合計	3,513,835	3,043,335
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△108,180	△1,840
その他の包括利益累計額合計	△108,180	△1,840
新株予約権	15,732	15,732
純資産合計	3,421,388	3,057,228
負債純資産合計	5,071,279	4,739,962

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	91,108	7,700
売上原価	15,916	1,410
売上総利益	75,192	6,290
販売費及び一般管理費	593,817	380,285
営業損失 (△)	△518,624	△373,995
営業外収益		
受取利息	10,392	17,374
為替差益	47,456	—
雑収入	38	36
営業外収益合計	57,888	17,410
営業外費用		
為替差損	—	25,455
新株予約権発行費	9,950	—
株式交付費	111	47
雑損失	649	344
営業外費用合計	10,711	25,847
経常損失 (△)	△471,447	△382,431
特別利益		
固定資産売却益	1,351	—
特別利益合計	1,351	—
特別損失		
固定資産除売却損	2	—
減損損失	4,040	784
投資有価証券評価損	—	134,000
特別損失合計	4,043	134,784
税金等調整前中間純損失 (△)	△474,140	△517,215
法人税、住民税及び事業税	3,220	1,138
法人税等合計	3,220	1,138
中間純損失 (△)	△477,360	△518,353
親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	△477,360	△518,353

## (中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純損失 (△)	△477,360	△518,353
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△44,584	106,340
その他の包括利益合計	△44,584	106,340
中間包括利益	△521,944	△412,013
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△521,944	△412,013
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純損失(△)	△474,140	△517,215
減価償却費	28	16
受取利息	△10,392	△17,374
為替差損益(△は益)	△47,800	25,199
株式報酬費用	31,638	24,378
株式交付費	111	47
新株予約権発行費	9,950	—
固定資産除売却損益(△は益)	△1,348	—
投資有価証券評価損	—	134,000
減損損失	4,040	784
売上債権の増減額(△は増加)	△22,244	20,350
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,576	△460
前渡金の増減額(△は増加)	40,074	△15,840
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,296	210
未払金の増減額(△は減少)	40,529	△32,036
前受金の増減額(△は減少)	12,950	57,200
預り金の増減額(△は減少)	43,460	122
その他	37,735	36,851
小計	△339,279	△283,767
利息の受取額	11,437	17,957
法人税等の支払額	△2,490	△2,383
営業活動によるキャッシュ・フロー	△330,332	△268,192
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△502,372	—
定期預金の払戻による収入	502,032	502,372
有価証券の取得による支出	△2,400,000	△2,400,000
有価証券の償還による収入	2,838,390	3,400,000
敷金及び保証金の差入による支出	△31,742	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	100,000
その他	229	△661
投資活動によるキャッシュ・フロー	406,537	1,601,710
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の発行による収入	3,728	—
自己株式の取得による支出	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,728	△0
現金及び現金同等物に係る換算差額	47,800	△25,199
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	127,733	1,308,318
現金及び現金同等物の期首残高	1,309,592	1,575,263
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,437,326	2,883,581

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（会計方針の変更に関する注記）

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20－3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65－2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

（セグメント情報等の注記）

当社グループは、医薬品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。